



岩国錦帯橋空港開港に向けた取り組み（平成24年2月一般質問）

かつて、日本には二つしか国際空港がありませんでした。それは、羽田と岩国であり、歳月を経て、岩国錦帯橋空港の愛称のもと再び開港できることは、本当に喜ばしいことです。

そして、空港新設の場合、通例2・3千億円かかる建設費も、米軍や自衛隊との共用空港であり、また、整備・管理は国で行うこととなることから、地元負担が少ないことも特徴です。一番機の銀翼が、岩国の空に輝く日が待ち遠しく感じられます。

また、早々と全日空の就航が決定し、旅客カウンター業務や貨物等の積み降ろしを引き受ける営業所の開設準備も始まり、また、空港のターミナルビルも、できるだけ早期の完成を目指し建設が進むなど、企業側の準備は着々と進みつつあります。

しかしながら、開港時期が24年度中とはされているものの、おおむねの時期すら明らかにされていないため、県全体からみればいまひとつ盛り上がりには欠けている感があります。

今回の当初予算では、駐車料金を無料にするための経費や運航事業者である全日空に対する路線開設費支援等が計上されていますが、例えば、いつも混雑する岩国市内の道路状況の中、スムーズに空港まで辿り着けるのか、又、JRの最寄駅から空港までの公共交通アクセスは確保されるのかという疑問もあります。

そこでお尋ねします。開港時期はいつ頃になったら決定されるのか、また、開港に向けてどのように取り組みを進められるのか御所見をお伺いします。

【二井知事答弁】

開港時期の決定について・・・

現在、国において平成24年度下期の開港に向け準備が進められているが、開港時期はいつ頃になるか未だ示されていません。

遅くとも5月中には開港日を決定してほしいと考え、国に対して、強く働きかけを行っている最中です。

引き続き1日でも早い開港の実現に向け今後も全力で取り組んでまいります。

開港に向けた取組について・・・

地元において、現在、県や地元市町等が設立した「岩国空港ビル株式会社」により空港ターミナルビルの整備が進められ、地元の利用促進協議会により空港開港の周知活動が展開をされるなど、開港に向けた準備が進められています。

こうした中、岩国錦帯橋空港を県東部地域の交流拠点として発展をさせ、地域の活性化に確実につなげていくためには、空港利用者の安定的・継続的な確保が重要な課題です。県としては、交通アクセスの充実・強化や、ビジネス・観光両面での利用者の積極的な掘り起こしなど、利用促進の取組を幅広く進めることにしています。

これまで以上に国や地元、全日空との連携・協力体制を強化しながら、開港に向けた取組の加速化を図っていきたいと考えています。

【山部地域振興部長答弁】

開港に向けた取組について・・・

空港駐車場については、岩国空港ビル株式会社と連携し、無料化に取り組みます。

空港へのアクセス道路については、空港に直結する市道を県道に格上げして整備するとともに、広域アクセス道路となる国道2号岩国・大竹道路や国道188号岩国南バイパス南伸の事業推進を国に強く要請しています。

公共交通機関によるアクセス確保は、バス事業者に対して、最寄駅となる岩国駅をはじめ、県東部地域及び広島県西部地域の主要なJR駅からの空港バスの運行を働きかけています。

また、首都圏からの利用者確保を図るため、地元の利用促進協議会が主体となり、開港日やダイヤ決定等のタイミングに応じて、効果的なPRを実施する予定です。

県においては、県内2空港を活用した旅行商品の造成・広域観光PRを実施し、首都圏からの観光客誘致の取組を進めるとともに、全日空と連携して、周南地域から広島県西部地域の企業訪問を実施し、空港利用の核となるビジネス客の確保を図ってまいります。

質問内容の全文はこちら

答弁の全文はこちら